

ハチに注意

関連単元

1.身近なしげんのかんさつ

- 植物の育ちとつくり
- 自由研究 てかけよう しげんの中へ
- いろいろなこん虫のかんさつ
- 植物の一生

1.春の自然(4年)

- 夏の自然
- 秋の自然

- ・他のハチに比べて攻撃性の強いスズメバチは5月頃から巣作りを始め、7月頃に働きバチの羽化が始まって数を増やし、10月頃がもっとも多くなる。夏から秋にかけて事故が多くなるので気をつける。
- ・スズメバチのなかでも特に攻撃性が強いオオスズメバチとキイロスズメバチにはより注意が必要である。



オオスズメバチ

刺されないために

1

観察地の事前調査と出会ったときの対策。

- ・事前調査で、ハチの巣の存在の有無を確認する。
⇒ハチが旋回飛行をしていたら、近くにハチの巣があることが多い。
- ・羽音が聞こえたら（ハチが飛んで近づいて来ている）、姿勢を低くする。
- ・ハチに出会ったときは、急な行動をしない。また、大声を出さない。
⇒冷静にゆっくりとその場から避難することが大切である。
⇒スズメバチの場合、集団での2次攻撃があるので、冷静にゆっくり逃げる。
- ・「巣には近づかない」「巣に刺激を与えない」ことが大切である。

2

服装に注意する。

- ・黄色と黒色の服は危険。帽子（黄色、黒色以外の色のもの）をかぶり、白っぽい服装をする。
- ・長袖の服で長ズボンははいていると、刺されても被害が小さい。

もしも、刺されたときは

1

刺されたら、次のことを行う。

- ・ハチの毒は水によく溶けるので、きれいな水があれば刺された箇所をよく洗い流してから、虫さされ用の薬をぬる。（虫さされ用の薬には、抗ヒスタミン剤が含まれている。）
⇒アンモニア水は、つけない。
- ・刺された部分は熱を持つので、氷か冷水で冷やす。
- ・ミツバチに刺されると、針に鉤があるため、針とその根元についている毒嚢^{のう}が内蔵ごと引きちぎられて、皮膚に刺さったまま残る。そのまま放っておくと、針が奥深く入り、毒が余分に送りこまれるので、毒嚢を指先ではじき飛ばして針ごと取り除く。

2

その他の注意

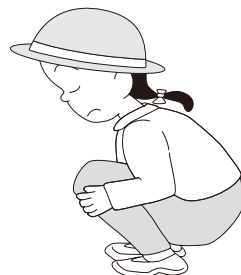
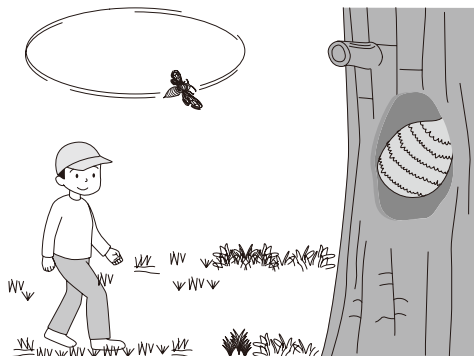
- ・初めて刺されたときに体内にハチ毒の抗体がつくられるので、2回目以降刺されたときには、アナフィラキシーショック（アレルギー反応）を起こす可能性を警戒する必要がある。このような危険性を考えても、ハチには刺されないようにすることが大事である。
- ・花に集まったミツバチは、刺激を与えない限り攻撃はしてこないが、巣に近づいたときは集団攻撃を受けることがある。毒の少ないミツバチも、集団で襲われるとショックを起こす。
- ・防虫剤を使うのも効果的である。ただし、成分表を確認し、アレルギー反応を起こさないように注意する。

ハチに気をつけよう

● さされないために

① かんさつ場所^{しよ}に、ハチのすがないかたしかめる。

- ハチがせん回ひこうしていたら、近くにハチのすがあるので、その場所からはなれる。
- ハチがとんで近づいてきたらしせいをひくくして動かない。



- すには近づかない。



② ぶく服^{ちゅうい}そうに注意する。

- 黄色と黒色の服は着ない。
- ぼうしをかぶる。(色は黄色、黒色がいい)
- 服そうは長そで、長ズボンにする。



● もしも、さされたら

- さされたらすぐに先生に知らせ、さしたハチがどんな色や形をしていたかできるだけ思い出して先生に言う。
- きれいな水でさされたところを洗う。
- 氷か水でひやす。

